

## 教 育 委 員 会 会 議 次 第

令和3年5月13日（木） 15:05  
小倉北区役所 東棟8階 ランチスペース

### 1 開 会

### 2 案 件

#### (1) 議案

議案第6号「北九州市社会教育委員の委嘱について」

(市民文化スポーツ局 生涯学習課長)

議案第7号「北九州市教職員身体検査審議会委員の委嘱又は任命について」

(給与厚生担当課長)

#### (2) その他報告

その他報告①「『小倉北特別支援学校・北九州中央高等学園整備基本計画』について」

(特別支援教育企画担当課長)

その他報告②「令和4年度使用教科用図書採択方針等について」

(学校経営・教育指導課長)

その他報告③「学校現場における新型コロナウイルス感染症の対応状況について」

(学校保健課長)

### 3 閉 会

教 育 委 員 会 （ 定 例 会 ）

- 1 開催年月日 令和3年5月13日（木）
- 2 開催時間 15:05～16:00
- 3 開催場所 小倉北区役所 東棟8階 ランチスペース
- 4 出席者 (教育長) 田島 裕美  
(教育委員) シヤルマ 直美 平野 氏貞 大坪 靖直  
津田 恵次郎 竹本 真実
- 5 事務局職員
- |                  |        |
|------------------|--------|
| 教育次長             | 古小路 忠生 |
| 総務部長             | 小杉 繁樹  |
| 教職員部長            | 高松 淳子  |
| 学校支援部長           | 春日 伸一  |
| 学校教育部長           | 高橋 英樹  |
| 次世代教育推進部長        | 金子 二康  |
| 総務課長             | 田中 真徳  |
| 企画調整課長           | 浜崎 善則  |
| 特別支援教育企画担当課長     | 緒方 直彦  |
| 教職員課長            | 立花 昭一  |
| 給与厚生担当課長         | 田中 満英  |
| 学校保健課長           | 角野 純二  |
| 学校経営・教育指導課長      | 澤村 宏志  |
| 教育振興担当課長         | 竹永 政則  |
| 生徒指導・教育相談課長      | 中溝 直樹  |
| 特別支援教育課長         | 小西 友康  |
| 中央図書館庶務課長        | 三ツ廣 託則 |
| 中央図書館奉仕課長        | 福田 淳司  |
| 市民文化スポーツ局 生涯学習課長 | 佐藤 健治  |
- 6 書 記 総務課庶務係長 増田 真二  
総 務 課 事柴 佑斗
- 7 会議の次第 別紙のとおり

## 教育委員会(定例会)会議録（令和3年5月13日）

### 1 開 会

15:05 田島教育長が開会を宣言

### 2 会議録署名委員の指名

田島教育長が会議録署名委員に、シャルマ委員と竹本委員を指名。

以下の案件を非公開にすることを議決

- ・その他報告① 『小倉北特別支援学校・北九州中央高等学園整備基本計画』について

### 3 案 件

#### (1) 公開案件

議案第6号「北九州市社会教育委員の委嘱について」

本議案の提案理由を市民文化スポーツ局生涯学習課長が説明。

[提案理由要旨]

北九州市社会教育委員の辞任に伴い、新たに委員を委嘱するもの。

#### 原 案 可 決

議案第7号「北九州市教職員身体検査審議会委員の委嘱又は任命について」

本議案の提案理由を給与厚生担当課長が説明。

[提案理由要旨]

北九州市教職員身体検査審議会委員の任期満了に伴い、新たに委員を委嘱又は任命するもの。

シャルマ委員／休職する教員の中で、精神的なものが原因となる教員は減ってきているものと記憶している。

しかし、委員の名簿を見ると実際には、内科や外科の医師に比べ、精神科の医師が4人と依然として多い状況である。精神的なものによる休職に関する判断というものは難しいからではないかと想像するが、どのように考えているのか、お聞きしたい。

給与厚生担当課長／病気休職をされる教員のうち、精神疾患による教員は、数としては減ってきているが、休職者の割合でみると約70%前後とあまり変わっていない。

令和2年度では、休職者42名のうち31名が精神疾患であり、74%である。

身体検査審議会での審議件数も、令和2年度114件で、そのうち精神疾患に関する審議が90件、8割弱がメンタルに関する審議となっており、件数が多いことから内科や外科の医師よりも多くなっている。

平野委員／身体検査審議会でのいわゆる「診断書」というものは、主治医や産業医が作成するものなのか、お聞きしたい。

また、休職している教員が復職する場合も、同様に身体検査審議会にて審議を行うのか。

給与厚生担当課長／診断書は、主治医が作成するものとしている。その診断書をもって身体検査審議会にて協議を行うことになる。

また、復職する場合も身体検査審議会に諮ったうえで、復職の手続きを取ることとなる。その際には、産業医の面談も行うため、産業医の意見と復職時の診断書などを参考に判断することとしている。

#### 原 案 可 決

(大坪委員退出)

その他報告②「令和4年度使用教科用図書の採択方針等について」

学校経営・教育指導課長が報告。

[報告要旨]以下の項目について報告。

令和4年度に使用する教科用図書について、採択方針等を報告するもの。

#### 報 告 終 了

(大坪委員入室)

その他報告③「学校現場における新型コロナウイルス感染症の対応状況について」

学校保健課長が報告。

[報告要旨]以下の項目について報告。

緊急事態宣言を踏まえた、学校現場における新型コロナウイルス感染症の対応状況について、報告するもの。

竹本委員／資料の「小中学校の授業について」お聞きしたい。以前もこのような措置を取っていたと記憶しているが、「1時間の授業を5分縮める」ことによって、具体的にどのような効果があるのか、改めてお聞きしたい。

学校経営・教育指導課長／実施の理由としては、「朝の健康観察を徹底するための時間の確保」や「接触する可能性がある時間を減らすことによるリスクの低減」などが挙げられる。

特に、朝の健康観察については、どうしてもやはり、朝のチェックリストを忘れてくる子どもがいたりするため、想定よりも時間がかかることが多い。そのため時間の確保という意味では大きな効果があると考えている。

また、昨年度は年間を通じて、短縮授業を実施している。特に、緊急事態宣言下の中での対応としては、学校からも大変好評をいただいております、今回も学校からの強い要望もあったため、このように対応を行った。

田島教育長／竹本委員にお聞きしたい。今回の短縮授業の実施について、保護者の方々にはその趣旨まで含めて伝えていると理解していたが、各学校からはそこまで伝わっていない可能性があるのか。

竹本委員／短縮授業を実施するその趣旨について、今のような具体的な説明はなかったが、学校からは「感染対策として、こういったことに取り組んでいます」というような、細かい説明は十分に行っていただいている。

学校教育部長／昨年度1年間、小学校で「40分」、中学校で「45分」の授業を実施してきたが、それによって、学校の下校時間が、大体20分から30分程度繰り上がることになる。それに伴って、例えば、部活の時間も短縮することができている。

今、世の中では、人流を避けるために、様々なものが短縮したり、AI化が進んだりしている中で、学校においても、子どもたちの接触機会を低減できるということについては、1つ大きなメリットがあるのではないかと考えている。

「たった5分」とは思うが、6校時あると大体30分程度変わってくる。そのように対応することによって、新型コロナウイルス感染症への感染対策をしていきたい。

学校でも、昨年度からのノウハウが蓄積されている。よりいっそうの感染対策を行っていきたい。

田島教育長／保護者の方に、この趣旨まで伝わるように、教育委員会としてお知らせの方法は考えたい。

大坪委員／梅雨入りの時期にもうすぐ入ろうとしていて、今度はコロナの感染症対策と併せて、熱中症についての心配もしながら対応しなければならない。

例えば、低学年の子どもたちが、昼休みに運動場で遊ぶ時には、マスクを着けて遊んでいるように指導しているのか。

学校経営・教育指導課長／現状としては、マスクは常時着けることとしているが、例外的に体育などで激しい運動をする際はつけなくてよい。

体育の授業中であっても、例えばストレッチや、先生の話聞くなどの時間はマスクを着け、運動をする際に外すとといった対応をしているところである。

## 報告終了

(関係者以外退出)

### (2) 非公開案件

その他報告①『小倉北特別支援学校・北九州中央高等学園整備基本計画』について』

特別支援教育企画担当課長が報告。

[報告要旨]以下の項目について報告。

小倉北特別支援学校・北九州中央高等学園の整備基本計画について、報告するもの。

平野委員／資料にある、「現状と課題」と「効果」のところに、「知的障害に応じた」というような表現がないにもかかわらず、3番、4番で突然、知的障害という表現をされていることに、違和感を覚えた。

知的障害に関する何らかの課題、問題があるのであれば、まず現状の課題に、それに対しての効果などを説明をすべきではないだろうか。やはり課題があるから、「知的障害に対応した」という話が出てくるのではないかと思う。

また、何点か質問と指摘をしたい。

まず、1点目に質問だが、少し細かい話となるが、「4 環境・整備における7つの柱」の⑦に「SDGs未来都市にふさわしい施設」と記載があるが、これについて、もう少し詳しく説明いただきたい。

2点目に、敷地面積についての記載だが、この表記で見ると、敷地面積が減っているような印象を受ける。もちろん、実際は増えていることはわかるが、この表記については、もう少し工夫した方がよいのではないかと思う。

3点目に、この「5 学校整備の概要」の「※1」について、令和2年5月1日現在の数値については、現在令和3年に入っているので更新すべきと考える。

特別支援教育企画課長／「知的障害」に関する表記については、今後、本資料の表記を検討していきたい。

「SDGs未来都市にふさわしい施設」についてだが、委員もご存じのとおり、本市はSDGs未来都市を掲げており、今後この施設が17のゴールのうちのどれをコンセプトに整備していくのか、どの要素が取り入れられるのかなどを検討している段階であるため、こういった表現をしているところである。

敷地面積の表記については、今後よりわかりやすい、誤解を与えないことのない表現に修正していきたい。

令和2年5月1日については、資料作成時点の最新の数値がここであったため、表記しているが、今後当然ながら新たな数値にすべきと考えている。

平野委員／「SDGs未来都市にふさわしい施設」について、今、説明いただいたことはわかるのだが、やはりある程度具体的に考えられることがあるのであれば、代表的なものというような意味で、何か示すことができればイメージがしやすいのではないだろうか。今後、検討いただきたい。

総務部長／少し補足させていただく。SDGsについての表現は、北九州市が、SDGs未来都市として進めていくにあたり、公共施設を作ろうとした時には、必ず掲げている目標となっている。

今後の検討によって、例えば「ゼロカーボン」などの「環境」的な側面を持たせるなど、様々な要素が出てくるのではないかと思う。表現としては、現時点ではこのようにさせていただきたいが、今後、議会などで説明する際には、委員がおっしゃっているような具体的なものを示すとよりわかりやすいのではないかと思うので、そこについては検討させていただきたい。

平野委員／SDGsの目標は17もあるので、より幅広く検討していきたいということで理解した。

大坪委員／児童生徒数について、お聞きしたい。

令和2年度の現状で、小倉北特別支援学校が145名で、北九州中央高等学園が115名と記載があるが、これは定員数なのか、お聞きしたい。

また、今後ニーズが高まってくることを予想してのことだと思うが、建替え後には、それぞれ154名と120名と左側の数値と比べて、数が増加している。

この数値について、詳しく説明いただきたい。

特別支援教育企画課長／結論から言うと、左側の令和2年度の現状については、定員数ではなく、令和2年5月1日時点の数値である。

また、建替え後の数値については、将来の推計人口などを加味して算出した数値である。委員がおっしゃるとおり、今後、ある程度ニーズが高まることも予想しているものである。

大坪委員／ある程度予想していることは理解できたが、やはり今後の状況によって変わってくる可能性があるかと思う。その辺りは、柔軟に対応することができるようになっているのか。

特別支援教育企画課長／過去20年間で特別支援学校の児童生徒数は毎年増加している状況である。確かに、今後必ず増えるわけではないが、この状況からみて増えていく可能性が高いため、この増加に伴う対応ができるよう柔軟に対応していきたい。

報 告 終 了

#### 4 閉 会

16:00 田島教育長が閉会を宣言